

東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート

No. 133

2026年4～6月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81

TEL 0172-33-8404 業務部 -2026.06.30-

HP <https://www.shinkin.co.jp/toshin/>

《今回調査のポイント》

● 4～6月期（今期）業況判断DI値 改善で推移

4～6月期の業況判断DI値は、前回調査比で15.4ポイント上昇し、▲10.7と改善した。前回予想値(▲5.2)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で31.7ポイント上昇の1.7、売上数量が32.1ポイント上昇の0.7、利益でも18.2ポイント上昇の▲13.5と、すべての項目で改善となった。

今期DI値は前期に比べ改善したが、昨年同期(▲1.4)からは悪化となる。さくらまつりやGW等により飲食業、サービス業、製造業は改善が見られる。青果物の輸送増加により運輸業、入学、異動シーズンにより不動産業、雪解けによる工事本格化により建設業においても改善が見られる。一方で、りんごの国内市場の消費鈍化により卸売業、イベント効果が限定的であった小売業は悪化となった。全業種において物価高騰に加え、中東情勢に起因する原材料不足や燃料費上昇の対応に苦慮している。



業況お天気図

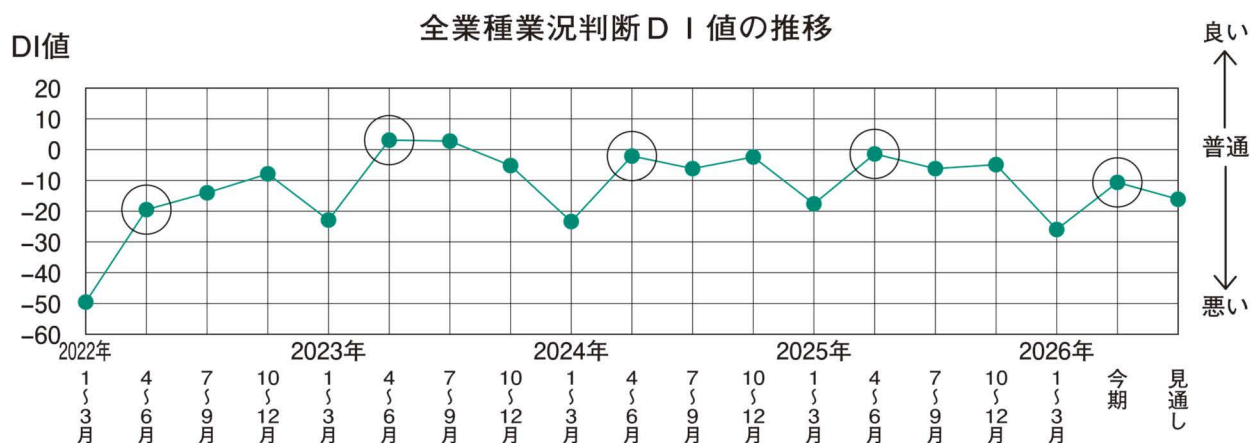
● 7～9月期（来期）各項目別DI値 やや悪化を見込む

7～9月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比で5.5ポイント低下し、数値は▲16.2とやや悪化する見通しとなった。項目別では、売上・受注で11.4ポイント低下の▲9.7、売上数量が10.4ポイント低下の▲9.7、利益でも3.7ポイント低下の▲17.2と、すべての項目で悪化となった。

業種別DI値は、青果物輸送の本格化により運輸業、ねぶた祭りやお盆の帰省等への期待から小売業は改善見通しである。その他の業種においては各種イベントによる客足の回復および売上増加が期待されるが、中東情勢に起因する原材料不足、仕入価格高騰、燃料費の高騰などが経営環境に与える影響は大きく、コスト上昇への対応が重要な課題となっており厳しい見通しとなった。



業況予想お天気図



お天気図

好調



低調

(お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

全業種総合

回答企業数290企業（回答率100%）

概況

～総合的業況判断DI値 改善で推移～

総合的業況判断DI値は、前期比15.4ポイント上昇し、▲10.7と改善となった。

業種別での業況判断DI値は、飲食業が49.8ポイント上昇の18.2、不動産業が53.5ポイント上昇の9.1、運輸業が8.3ポイント上昇の8.3、サービス業が42.9ポイント上昇の2.4、建設業が10.7ポイント上昇の▲4.8、製造業が33.1ポイント上昇の▲20.0、小売業が3.5ポイント低下の▲22.6、卸売業が20.6ポイント低下の▲38.5となった。6業種が改善し、2業種は悪化となった。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」170先、「売上の低迷・減少」86先、「人員不足」86先、「利幅の縮小」72先、「経費の増加」69先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は34先増加、「売上の低迷・減少」は6先減少、「人員不足」は11先減少、「利幅の縮小」は9先増加、「経費の増加」は14先増加となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が27先で前期比11先減少、設備投資実施予定割合は9.3%で前期比3.9%減少となった。業種別では、運輸業（機械・その他）25.0%、製造業（機械・その他）16.7%、飲食業（建物）13.6%、サービス業（建物・機械）9.5%、小売業（土地・建物等）9.5%、不動産業（建物）9.1%、卸売業（建物）3.8%、建設業（機械）3.2%であった。

資金繰りDI値は、前回調査比で10.2ポイント改善の▲11.4となる。今期借入した企業は15.2%と前回調査時（17.1%）より1.9%減少となった。

来期の見通し

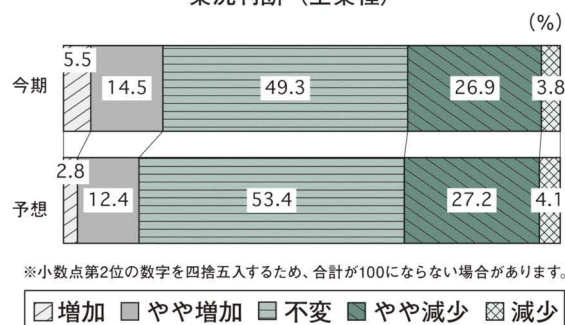
～総合的業況判断DI値 やや悪化の見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比5.5ポイント低下し、数値は▲16.2とやや悪化する予想となった。

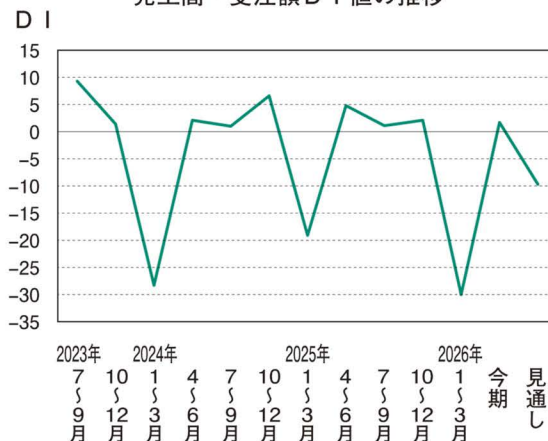
業種別では、運輸業が8.4ポイント上昇の16.7、小売業が1.2ポイント上昇の▲21.4、サービス業が2.4ポイント低下の0.0、製造業が6.7ポイント低下の▲26.7、卸売業が7.7ポイント低下の▲46.2、建設業が11.1ポイント低下の▲15.9、飲食業が18.2ポイント低下の0.0、不動産業が18.2ポイント低下の▲9.1となり来期の見通しは、2業種が改善し、6業種は悪化となった。

今期資金手当てした先が15.2%、今後資金手当て等借入を予定している先は17.6%となっている。

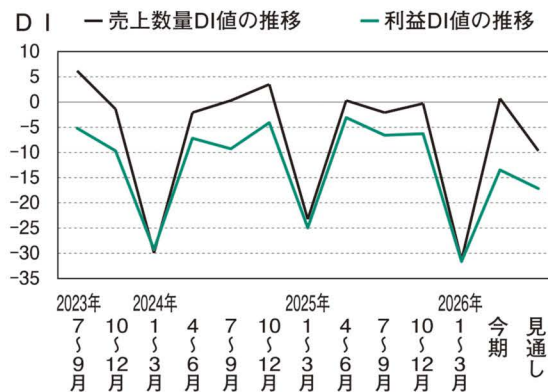
業況判断（全業種）



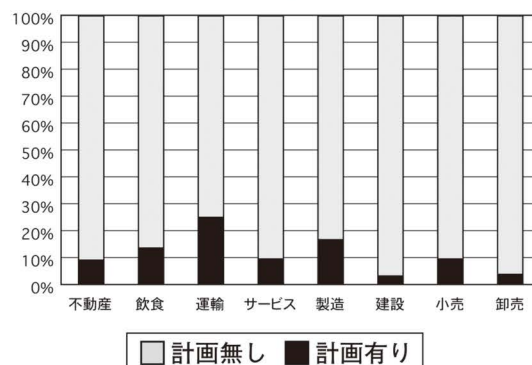
売上高・受注額DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無



建設業

回答企業63企業

概況

～業況判断D I 値 改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で10.7ポイント上昇し、▲4.8と改善した。前回調査時の予想値0.0は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で38.8ポイント上昇の9.5、売上数量が42.1ポイント上昇の11.1、利益でも14.9ポイント上昇の▲12.7と、すべての項目で改善となった。

住宅建築業は、新築、リフォーム工事受注良好であるが、資材価格高騰は続いており、中東情勢に起因する原材料入荷の遅延等も加わり影響を受けている事業者もある。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

造園工事業では、雪解けにより工事受注増加したが、材料費高騰により利益は前年同期より減少した。

板金塗装業では、受注が安定して入ってきているが、中東情勢の影響から原材料入荷が遅延しており、在庫切れによる工事への影響が懸念される。

土木工事業、管工事業では、公共工事・民間工事ともに工事受注については一定数確保するも人員不足は継続。原材料費高騰および人件費等その他経費増加により適正価格設定に苦慮している。

来期の見通し

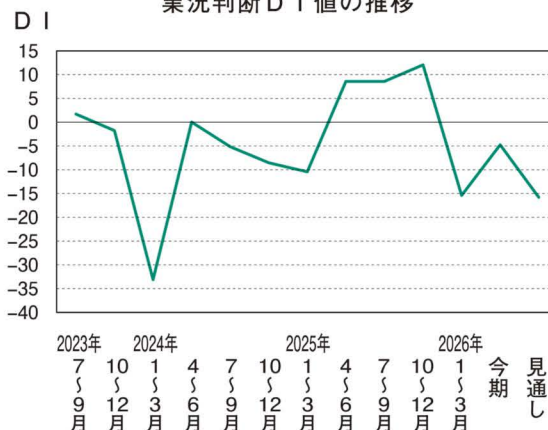
～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で11.1ポイント低下し、数値は▲15.9と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で19.0ポイント低下の▲9.5、売上数量が23.8ポイント低下の▲12.7、利益でも4.8ポイント低下の▲17.5と、すべての項目で悪化の見通しとなった。

原材料入荷の遅延等により、工事の見通しが立たず相談を断っている事業者もあり悪化の見通しとなった。

業況判断D I 値の推移



製造業

回答企業30企業

概況

～業況判断D I 値 大幅改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で33.1ポイント上昇し、▲20.0まで回復した。前回調査時の予想値▲15.6は下回る結果となった。項目別では、売上・受注は43.9ポイント上昇の3.3、売上数量が40.4ポイント上昇の▲3.3、利益でも30.5ポイント上昇の▲13.3と、すべての項目で大幅改善となった。

さくらまつりやGW等イベントに関連する食品製造業においては売上・販売数量等好調に推移した。一方で原材料費高騰は継続しており対応に苦慮している。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

鉄鋼加工製造業では、中東情勢の影響により材料の調達が困難となり、仕入価格も高騰していることから来期から値上げを実施する予定。

生コン製造業では、材料費高騰により住宅新築棟数が減少しているが、新規取引先確保により売上減少分をカバーした。今後も新築棟数は減少予想であり売上減少の不安あるも、価格改定や経費削減により利益確保に努める。

木材、木製品製造業では、建築用資材の受注は前年並みに推移した。原油価格高騰の影響により、農業事業者が使用するプラスチックパレットの木製品への切替需要が見込まれており期待できる。

来期の見通し

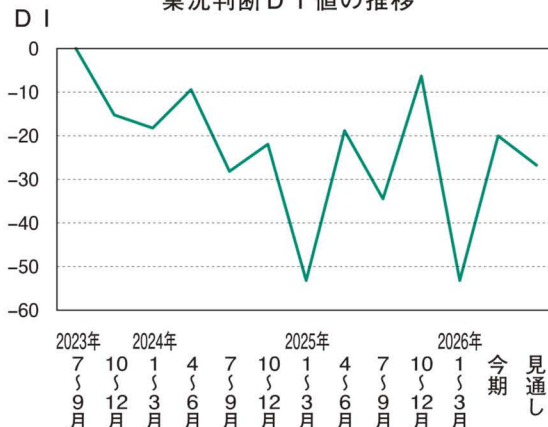
～業況判断D I 値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で6.7ポイント低下し、数値は▲26.7とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で20.0ポイント低下の▲16.7、売上数量が13.4ポイント低下の▲16.7、利益でも6.7ポイント低下の▲20.0と、すべての項目で悪化の見通しとなった。

ねぶた祭りやお盆の帰省等に期待する業種もあるが、総じて原材料費高騰や経費の増加による利益縮小を懸念している。また、中東情勢に起因する一部材料の入荷遅延も不安材料となっている。

業況判断D I 値の推移



サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断D I 値 大幅改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で42.9ポイント上昇し、2.4と大幅改善した。前回調査時の予想値0.0も上回る結果となった。項目別では、売上・受注で35.7ポイント上昇の9.5、売上数量が50.0ポイント上昇の16.7、利益でも33.3ポイント上昇の2.4と、すべての項目で大幅改善となった。

旅館、ホテル業では、さくらまつりやGW等により稼働率好調に推移し、需要動向に応じた価格調整により一定の収益を確保できた。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

自動車整備、鋳金業では、車検・修理依頼は前年並みに推移した。タイヤ交換では売上確保するもタイヤ等の値上げにより利幅縮小。

理容、美容業では、来客数に変わりはないが、原油高の影響により、溶剤やシャンプーなどが値上がりしており利幅縮小し値上げを検討している。

自動車教習所では、少子化に伴い高校生を中心に入校者数が減少しているが、来期は夏休みもあり、大学生を中心に一定の入校者数が見込める。

来期の見通し

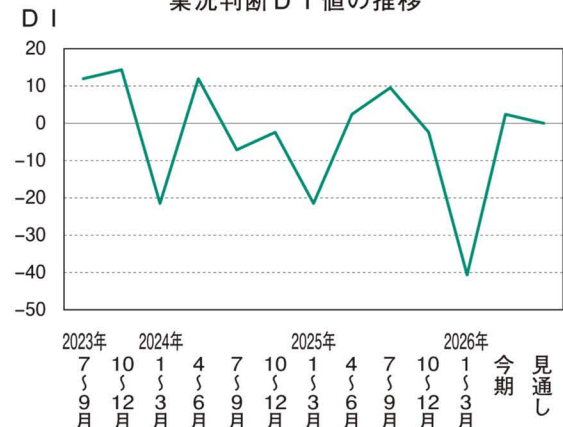
～業況判断D I 値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で2.4ポイント低下し、数値は0.0とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で11.9ポイント低下の▲2.4、売上数量が14.3ポイント低下の2.4、利益でも11.9ポイント低下の▲9.5と、すべての項目で悪化の見通しとなった。

旅館、ホテル業では、ねぶた祭りやお盆の帰省等により稼働率向上が期待できる。ファミリー層向けの宿泊プランの拡充に加え、新規のピアバイキング企画を導入予定。

業況判断D I 値の推移



運輸業

回答企業12企業

概況

～業況判断D I 値 改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で8.3ポイント上昇し、8.3と改善した。前回調査時の予想値0.0も上回る結果となった。項目別では、売上・受注で65.0ポイント上昇の25.0、売上数量が56.7ポイント上昇の16.7、利益でも58.3ポイント上昇の8.3と、すべての項目で大幅改善となった。

貨物運輸業では、りんごに加え、野菜等の数量が増加し売上は増加傾向である。一方で人件費増加や燃料費の増加等もあり収益環境は厳しい状況が続く。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

旅客運送業では、さくらまつり等の期間は観光バス受注好調に推移し、6月も学校関連で繁忙期であった。来期もねぶた祭りや学校関連での受注が見込める。

建設資材運送業では、建設業からの資材輸送依頼あるも燃料費の上昇分を都度価格転嫁できず利益は減少している。また、タイヤ価格値上げも、コンクリート製品等の長距離輸送はタイヤの摩耗を早めるため懸念材料である。

来期の見通し

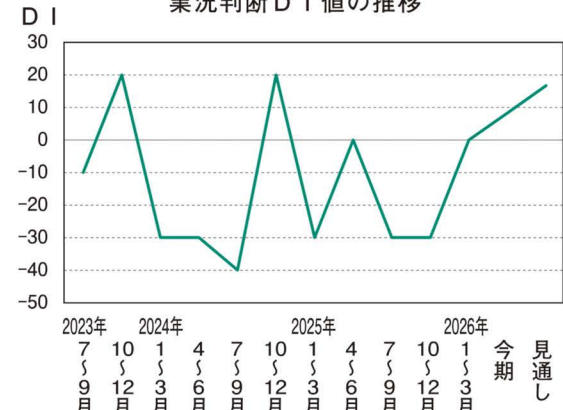
～業況判断D I 値 改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で8.4ポイント上昇し、数値は16.7と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で8.3ポイント低下の16.7、売上数量が横ばいの16.7、利益でも横ばいの8.3と、1項目が悪化し、2項目が横ばいの見通しとなった。

貨物運輸業では、野菜の輸送が本格化し好調に推移する見通しであるが、燃料費増加やタイヤ価格値上げ等の経費の増加が懸念材料となる。

業況判断D I 値の推移



飲食業

回答企業22企業

概況

～業況判断D I 値 大幅改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で49.8ポイント上昇し、18.2と大幅改善した。前回調査時の予想値31.6は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で78.5ポイント上昇の36.4、売上数量が73.9ポイント上昇の31.8、利益でも66.2ポイント上昇の13.6と、すべての項目で大幅改善となった。

さくらまつりやGW等により来客数は増加し、売上は好調に推移したものの、仕入価格の上昇が収益を圧迫している。

来期の見通し

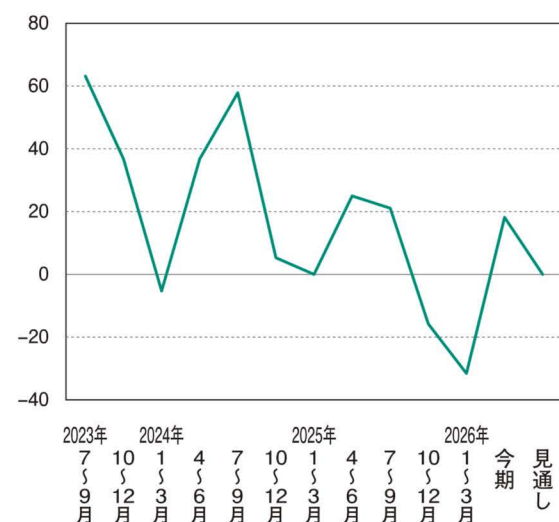
～総合的業況判断は悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で18.2ポイント低下し、数値は0.0と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で27.3ポイント低下の9.1、売上数量が27.3ポイント低下の4.5、利益でも18.1ポイント低下の▲4.5と、すべての項目で悪化の見通しとなった。

ねぶた祭りやお盆の帰省等により売上増加が期待される一方、仕入価格の高騰が続くなか、利益確保に向け価格改定を検討する事業者が多い。

業況判断D I 値の推移



不動産業

回答企業11企業

概況

～業況判断D I 値 大幅改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で53.5ポイント上昇し、9.1と大幅改善した。前回調査時の予想値22.2は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で53.5ポイント上昇の9.1、売上数量が35.3ポイント上昇の▲9.1、利益でも44.4ポイント上昇の0.0と、すべての項目で大幅改善となった。

入学、異動のシーズンとなり売上は増加している。人口減少や修繕等に係る費用の増加により、販売数量、利益は変動がなかった。中古物件の仲介業務についても好調に推移している。

来期の見通し

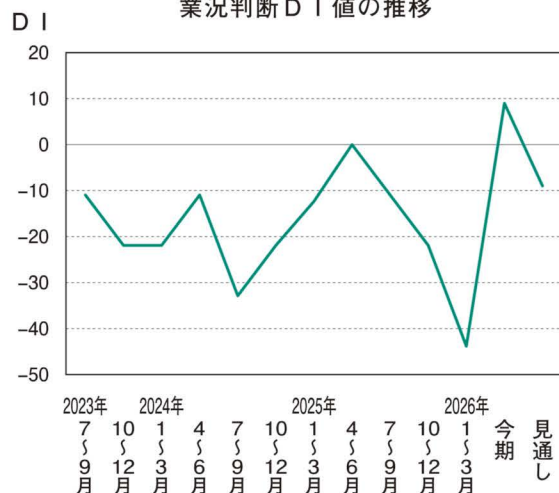
～総合的業況は悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で18.2ポイント低下し、数値は▲9.1と悪化の見通しである。項目別では売上・受注で横ばいの9.1、売上数量が9.1ポイント上昇の0.0、利益では9.1ポイント低下の▲9.1と、3項目のうち1項目が横ばいで、1項目は改善、1項目は悪化となった。

中古物件の仲介業務は引き続き好調だが、修繕費用等の高騰から利幅は縮小している。

業況判断D I 値の推移



調査要領

- 調査時期 2026年6月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内290社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」 「やや増加(やや上昇)」 したとする回答と、「減少(下降)」 「やや減少(やや下降)」 したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。